

東ドイツの悲劇から安心の故郷へ

甲斐規雄

はじめに

職業軍人であった父（旭川第28連隊副官）は、1945. 7. 20中国衡陽南方黄沙嶺で第58旅団高級副官として戦死した。広島（1945. 8. 9）、長崎（1945. 8. 6）の原爆投下は、個人的には皮肉な話である。そしてシベリア抑留、吉川仁造氏は『回国の岸辺の眼』⁽¹⁾の中で「ドイツ敗北の表面構造は、ソ連赤軍のベルリン総攻撃開始（1945. 4. 30）、東西から挟撃の米ソ両軍、エルベ川岸トルガウで合流（同4. 25）を経て、ヒトラー自殺（同4. 30）、ベルリン陥落（同5. 2）、全ドイツ軍無条件降伏調印（同5. 7）と、約二週間でケリがついたのにたいして、日本の場合は五ヶ月以上にわたって絶望的な遅疑逡巡をくり返しているうちに敗北の傷口を無制限に広げてしまった。すなわち米軍の東京大空襲（同3. 10）にはじまる大都市無差別爆撃から硫黄島陥落（同3. 22）米機爆撃による皇居の一部炎上、明治神宮焼亡（同4. 14）、ソ連仲介による終戦工作開始（同5. 14）、沖縄守備隊全滅（同6. 23）、終戦幹旋依頼のための近衛文麿モスクワ派遣申し入れとその無回答（同7. 14）、鈴木貫太郎首相の対日ポツダム宣言黙殺談話（同7. 28）、米軍による広島の原爆投下（同8. 6）、ソ連、対日宣戦布告（同8. 8）、米軍による長崎の原爆投下（同8. 9）、御前会議でポツダム宣言受諾決定（同8. 14）、天皇終戦の詔勅放送（同8. 15）、ミズリー艦上での降伏文書調印（同9. 2）、〈中略〉狂暴化した軍部支配を内蔵する国体護持主義政権〈中略〉対日ポツダム宣言黙殺の45年7月28日以後、少なくとも約20日間は全くの無駄な抵抗に過ぎなかった。〈中略〉広島・長崎二都市の壊滅および市民合計21万人の死者、33万人の被害者を出した原爆二発と関東軍70万の崩壊および逃避行難民の死者20万人余を出したソ連参戦」⁽²⁾と述べている。

それに引き替え「ドイツの場合は、ユダヤ人絶滅政策、ゲシュタポなど恒常的な迫害、拷問、虐殺〈中略〉ヒトラーの自殺に対する原爆二発〈中略〉視点を人道に対する罪に据えて考察するならば、限りなくイーブンにちかい」⁽³⁾ということには説得力がある。

かくして「独逸の永久分裂状態の維持」が確定し、東西ドイツに分割、東ドイツの統治権をソ連は確保した。その時のソ連の犠牲者は、ほぼ2,000万人といわれる。北海道分割説もその一貫であろう。結果としてヤルタ会談の民族自決の原則が貫かれることになった。

非交戦状態のアメリカは、民主主義の兵器廠として「武器貸与法」（同41年3月）を成立させ、積極的に連合35カ国との「武器貸与協定」を結んだ。これを好餌食としてスターリンは1941年11月7日以降、その「武器貸与協定」の適用を取り付け、大砲、戦車、飛行機、自動車など大量の兵器を導入した〈中略〉これは折からの日米開戦（同41年12月7日）をうけたルーズベルトが、ソ連による北方からの対日参戦を促す誘い水であったのはいうまでもない。かくして満州全域、朝鮮半島、サハリン、千島列島そしてシベリア抑留であ

った。

偶然であるのか、独逸と日本の敗戦には何故かソ連が介在していることである。⁽⁴⁾そこにはソ連、とりわけスターリンは、英仏米に対しては中立を通し、バルト三国、ポーランド、フィンランドと軍事戦略は進められ、1941. 4. 13「日ソ中立条約」、同7. 12「英ソ相互援助条約」、同8. 1「米ソ援助協定」の仕上げとして連合国の仲間入りともいえるべき「大西洋憲章」に同8. 9～12参加した。この段階で既にソ連の中立という立場から武器援助、食料援助の通路が完成したことになる。進むべき道は日本北方領土に繋がっていた。「日ソ中立条約」は、占領すべき錦の御旗であった。

昨年8月29日～9月8日、旧東ドイツにFröbel, F. の思想、教育施設誕生の地を訪ね、45年に亘る共産主義イデオロギーの主義、主張が、「ドイツの緑の心臓」Grünes Herz Deutschlandsといわれるチューリンゲンの森が産み出し、世界各国、民族を越えて伝播していった新人文主義の思想を払拭してしまっていた状況を具に感じた。魔法にかけられた共産主義イデオロギーの主義、主張の夢から、ドイツ統一からの12年間ではその夢は醒めることはなかったことを目の当たりにし、愕然とした。

ソ連赤軍の行為、その背後にある共産主義イデオロギー、スターリン主導の占領、国家社会主義Nationalsozialismus対レーニン主義Bolschewismus（軽蔑的にボリシェヴィスムス・ソヴィエト共産主義）対日独伊Faschismus体制で、ソ連は独力でドイツ軍30万人殲滅、共産主義イデオロギーの勝利に終わり、「ドイツの永久分裂状態の維持」が達成された。この反共ブロックとしての東ドイツ、ヤルタ体制（鉄のカーテン）の44年間の対立、全体主義対民主主義NATO対WTO。

日本分裂は、ドイツの延長線上にあったことがよくわかる。同盟三大国の総攻撃、ソ連が首都ベルリン制圧を受け持ったことがドイツの東西分裂に繋がっている。

全ヨーロッパ地図の塗り替え、東欧、バルカン諸国。そのための米英の原子爆弾「赤ん坊、元気に誕生！」に、ソ連が即断するのは当然であったと思う。そしてソ連の日本人捕虜のシベリア抑留、ドイツからの専門科学者の強制連行に繋がったこの事実には、今日の国際紛争の纏れの原点が見える思いがする。

第二次世界大戦を終戦に導いた原子爆弾とヒットラーの自殺、日本は54万人の死者、被害者、ドイツは一人の死、ヒットラーの自殺が名誉の戦死と言われるのも理解できる。しかし戦後の日本は、ソ連による北海道占領が実現せずアメリカの間接統治となり、戦後のドイツは東ドイツ占領ということで決着している。

日本は、1948年のアメリカの極東政策の転換で3年後サンフランシスコで講和会議が開催され、平和条約調印、続いて日米安全保障条約が調印されている。

一方ドイツは、1945年ベルリン陥落、ドイツは東西に分裂された。そして1949年西ドイツ（ドイツ連邦共和国）、東ドイツ（ドイツ民主主義共和国）に分割された。そして戦後41年を経て、1990年10月3日西ドイツが東ドイツを吸収する形で合併された。

1. 東西ドイツ統一後における旧東ドイツの教育思想

この度、Friedrich Fröbel（1782～1852）を旧東ドイツに訪ねる機会を得た。Frankfurt

am MainからGrimm兄弟の町Hanau, そして旧東ドイツに入り宗教改革のLuther, M., 学術的作曲家カンタータの父Bach, J. S. の町Eisenachにさしかかる頃, 突然黒い森が見え隠れしてきた。ゲルマン民族の魂が宿り, Grünes Herz Deutschlands「ドイツの緑の心臓」と言われる垂涎のThulingerwaldである。そこに点在するBad Liebenstein, Schweina, Mariental (8/26), Bad Blankenburg, Keilhau, Steiger (8/27), Bad Blankenburg, Oberweißbach (8/28, 29), Bad Blankenburgは, Fröbel, F. が誕生, 幼稚園の開設, 教員養成等の思想, 教育活動等, 一生を全うした森であった。

そこには, 現代建築の高層ビルはなく, 小麦畑が収穫を待つばかりに黄色に色を染め, 冬に備えて刈り取られた牧草が直径2メートルの輪にぐるぐる巻にされ, 点在し, 中世, 近世ドイツのさながらの遺産が, 何もなかったかのように中世の遺した広い領地と城郭Burg Greifenstein, 教会Stadtkirche St. Nikolaiゆったり流れるシュヴァルツァー川, ウェーザー川, ザーレ川は中世・近代の原風景であった。

1990年10月3日ドイツ連邦共和国Bundesrepublik Deutschlandは, ドイツ民主共和国Deutsche Demokratische Republikを吸収合併するという方法でドイツ統一Deutschlandを達成し, 文明の衝突より「生存本能」, 「存在感」, 「安心」を求めイデオロギーを放棄した。敗北, 喪失, 終焉という言葉の方が適切かもしれない。

1-1. 第二次世界大戦後東ドイツにおける教育改革

ソ連の占領地区になった東ドイツは, ナチズムを払拭し教育の民主化を目指したことは言うまでもない。この「教育の民主化」が教育改革の根底にあり, そのための近代教育学の遺産の中に理論武装の根拠が存在したはずである。それはPestalozzi, J. H. (1746-1827), Herbart, J. F. (1766-1841), Fröbel, F. (1782-1852), Schulze, J. (1786-1869), Diesterweg, A. W. (1790-1866), Fliegener, Th. (1800-1864), Petersen, P (1841-1952), Kerschensteiner, G. (1854-1932), Gaudig, H. (1860-1923), Lay, W. A (1862-1926), Meumann, E. (1862-1915), Lietz, H. (1868-1919) 等が挙げられると思われる。

いずれこの一人一人を検証したいと思うが, 本論文ではソ連の非ナチ, ソヴィエト共産主義, 社会主義, 反ファシズム, キリスト教的ヒューマニズム, (労働者, 農民の国家), マルクス=レーニン主義というイデオロギー, 体制が, 戦後の旧東ドイツの教育思想にどのように影響を与えたのか検討してみたい。

(1) 東ドイツにおける労作教育と労働教育

1946年の「ドイツ学校教育民主化法」Gesetz zur Demokratiesierung der Deutschen Schuleの骨子は以下の通りである。⁽⁵⁾

- (1) ドイツ民主教育は青年をナチズム・軍国主義から解放し, 平和と民主主義の真の理解者となれるよう青年を教育する。
- (2) 教育はすべて国家の問題である。
- (3) したがって, 私立学校は禁止され, 教育と宗教とは明確に分離される。
- (4) 七～八学年より, 第二外国語, 数学, 理科の選択制を認める。
- (5) 職業学校は義務制とする。

(6) グルントシューレ、職業学校は無償とする。

この(2)(3)(5)(6)については、Pestalozzi, J. H. Kerschensteiner, G. の思想研究が行われ、「労作教育」が「職業教育」、「労働教育」と衣替えしている。同時に公布された指導要領の中で「教育に掲げた教育目標は、教師の目標をみつめた計画的な授業実践によってのみ達成される。その際、適用される教育方法は労作学校Arbeitschuleの方式である。」と述べている。⁽⁶⁾そしてこの労作教育の前提として公民教育を主張している。公民を養成するためには、労働共同社会Arbeitsgemeinschaftを組織し勤勉、忍耐、注意、自制、犠牲、勤労愛を養うべきことを主張している。

Pestalozzi, J. H. の教育活動、思想の根底には、家内労働、農民の貧困から出発している。そして、そこから彼らを解放することが彼の終生の課題であったということが出来る。かれのNeuhofでの課題を貧困の子どもたちに労働を通して、自活し同時に職業技術と能力の養成とを結びつけたことにあった。その意味では、人間の基礎教育に労作は不可欠のものであった。また、彼の民衆、貧民教育のために捧げた生涯、身分社会の秩序を前提とする職業教育に疑問を抱き、一般陶冶、人間陶冶を主張する思想は、東ドイツの社会主義的な学校制度に大きな説得力を持っている。

Kerschensteiner, G. は、München大学で教育学を講じ、ドイツ教育教授委員会の会長として教育改革の推進に尽力していた。その根底には共同作業を置き、精神的、道徳的、技術的能力の発達を目的としている。この勤勉、協力、奉仕、忍耐等の労作教育を通して、個人主義的立場から協働主義的教育観に至ることを目的としていた。このことは、個人の領域を越えて国家の構成員としての資質の養成へと連動している。その時点で既に、ゲルマンの魂、民族という近代ドイツ思想、普遍性を阻害している。善良な国民としての枠組みを感じざるを得ない。

しかし晩年、何故か教育の根本概念に陶冶、興味、価値を据えて、真善美聖の永遠の価値の形成を主張している。この思想は、Spranger, E. を彷彿とさせる。

かくして、東ドイツにおける教育改革の核である「労働教育」は「労作教育」に自然に達着し、東ドイツの教育改革の近代ドイツの教育思想の先駆者として、教育改革関係者がPestalozzi, J. H. とKerschensteiner, G. 研究を行ったとしても不思議ではない。しかし、教育と宗教とは明確に分離されることから、Pestalozzi, J. H. の場合、労作教育を支える宗教については排除されたものと考えられる。

一方で、ナチが政権を掌握した時点で葬り去られた教育改革運動が復活したという説も説得力がある。⁽⁷⁾ライプツヒでの合科教授運動、Petersen, P. のイエナ・プラン、このいずれも東ドイツに位置していることから考えられる改革案である。⁽⁸⁾特にイエナ・プランは、彼がイエナ大学教育学教授、教育科学研究所長に就任、附属の実験学校の指導者となった時の成果である。この教育大学で養成された教師達が大きな役割を演じたと考えられる。その根底には、ライプツヒ大学時代Wundt, W. に私淑し、大きな影響を受けイエナ大学で「Wundt, W. における発展の思想」で学位を取得している。その意味で、彼のイエナ・プランの思想背景には、科学的な根拠があり、又、アメリカに渡り視察、実験したことが、イエナ・プランの基礎になっている。しかしその思想の根幹には社会的、文化史的な側面とKrieck, E. と教育科学を主張し、その教育科学を自立科学としたことから、いわゆる近

代ドイツの思想とは必ずしも合流しない。その後、彼は何か1950年公職追放になっている。

このイェナ・プランは、学校組織案は別に生活協同社会学校Lebensgemeinschaftsschuleと呼ばれている。この特徴は従来の学年別の学級を廃止したことに特徴がある。東ドイツでの八年制統一学校を三集団に分け、1～3年の低学年集団、4～6年の中学年集団、7～8年の高学年集団の学習集団を作り、個人中心から生活集団、指導と服従の秩序が保たれ、この三度の入れ替えで、指導と服従の入れ替えが行われ指導者訓練に効果があると評価された。教育方法についても、その思想的根拠を自己活動の原理に置いているが、合科的、集団的教授方法を重視している。そして、算数、国語のような用具教科については徹底した能力別の集団に分けて行われている。

1-2. 東ドイツにおける総合技術教育の教育要領⁽⁹⁾

この総合教育の基本となる公民科は「生徒はより明確に政治的に考えることを学び、労働者の要求を満たす政党の働きを理解するようになる。あらゆる社会問題は階級的な視点から論じられる。＜中略＞青年は積極的に社会主義社会建設に参加する課題を意識しなければならない」とし、「労働者階級の戦い、敵側の理論の研究、全ドイツの社会主義、狼のような資本主義のモラル、十月社会主義革命とソ同盟の社会主義建設」等、教育内容上では、社会主義は完了している。そのために十年制一般陶冶総合技術学校の設定が急務となり、「オーバーシュレ十年制改革に関する指令」により、十年制一般総合技術学校Zehnklassige allgemeinbildende polytechnische Schuleが設立された。

以下、教科を列挙しておく。

国語、社会科（郷土科、歴史、公民科、地理）、算数、ロシア語、理科（物理、科学、生物）、芸術体育（図画、音楽、体育）、総合技術教育（工作・生産活動）、選択科目（第二外国語、速記）

1-3. 教員養成

東ドイツの教員養成は、十年制一般陶冶総合技術学校Zehnklassige allgemeinbildende polytechnische Oberschuleを卒業後、教員養成所Institute für Lehrerbildungで4年間の養成教育を受ける。履修科目は、用具教科（国語、算数）、選択教科について第1学年から第10学年の準備教育を履修する。そして第一回国家試験を受ける。そして教員として採用されて2年間の試補期間が設定され、経験を積んだ教員から付きっきりで徹底した指導を受けた後、第二回目の国家試験を受ける。

2. 第二次世界大戦後西ドイツにおける教育改革

ドイツ連邦共和国Bundesrepublik Deutschlandは、文部大臣会議「教授における全体主義の取り扱いに関する指導要領」Richtlinien für die Behandlung des Totalitarismus im Unterricht, 1962.において、全体主義Totalitarismusとは、①疑似宗教的な救済の教義的な性格を持つイデオロギー、②無制限の支配、公私にわたる全生活の統制、③一党独

裁支配と反対者の排除, ④民主的形式を利用した少数者の独裁の表面的独裁制, ⑤政治的, 精神的, 組織的な恐怖による支配⑥人間尊厳の無視⑦平和, 自由, 民主主義等尊敬すべき概念の悪用⑧世界支配を目指すものであると決議し, ドイツ連邦共和国の教育の基調となった。⁽¹⁰⁾

しかし, ドイツの学校制度は本来連邦主義Föderalismusを抑制してきた。あくまでも学制に対して決定権を持つのは, ドイツ連邦共和国を構成する州である。日本の学校教育法のような地方自治体の教育行政を規制する法律は存在せず, 諸規定は各州法である。

その州法には, 教育の目標, 就学義務, 学校の創設, 教員の養成・研修, 監督, 管理, 授業料・教材費の無償が規定されている。また私立学校の地位と保護も法律で規定されている。

そして, 「学校は委託された青少年達に生活と職業の準備をさせ, キリスト教や西欧文化の長所及びドイツの教育的遺産を基礎として彼らの民主的かつ社会的法治国について, 自主的に思考し, 責任意識をもって行為する市民に養成し, 教育する使命を有する。いかなる児童も, その教育課程において社会的諸理由から差別されてはならない。」とその教育の目標もワイマール時代の教育理念を引き継いでいる。

2-1. 用具教科の徹底と教養教科

就学義務も満6歳から18歳まで, Grundschule(4年)→Hauptschule(5年), Realschule(6年), Gymnasium(9年)に通学する。

(1) 就学前の教育

3～6才の3年間Kindergartenに通園する。またGrundschuleに参加できない子どもたちのためにSchulkindergartenが設置され, 読む, 書く, 数える教育を行っている。その教育は, Fröbelの教育思想, 原理に基づいており, 母性的な教育の在り方, 子ども部屋の延長としての幼稚園を目指している。

(2) Grundschuleの教育

文部大臣会議(1956)で6才から10才までの年齢段階について, 「グルントシューレは, 児童を遊戯的態度から目的指向的勉学へとしだいに導き, 共同社会生活のために教育し, 全体的および全精神的な諸力の向上を通じて自然的発育を促進し, 児童の発育を促進し, 児童の発育段階に相応する諸認識と諸才能を授ける等の諸任務を持っている」とHauptschule, Realschule, Gymnasiumへの継続的人格陶冶に限定している。

前述のごとく州法により具体的教科, 方法, 機構等が決定されるが, 教科は宗教Religionslehre, ドイツ語Deutsche Sprach, 唱歌Singen, 郷土史Heimatkunde, 算数Rechnen, 体操及びスポーツTurnen und Sport, 女子手工Madchen-Handarbeitがその一例である。

(3) Hauptschuleの教育

職業準備学校ではなく, 8～9年で修了する普通教育である。教科は総括授業Ganzheit Unterricht, 宗教Religion, ドイツ語Deutsche, 英語Englisch, 歴史Geschichte, 地理Erdkunde, 生物Biologie, 博物, 物理, 化学Naturlehre, Physik, Chemie, 算数, 幾何Rechnen, Raumlehre, 図画, 工作Zeichnen, Werken, 裁縫Nedelarbeit, 家庭科Hauswirtschaft, 音楽教育Musikerziehung, 保健体育Leibeserziehungが一例である。

(4) Realschule

Hauptschule と Gymnasium の中間に位置する学校で、技術学校、高等専門学校への準備学校の役割を果たしていた。教科は、宗教 Religion, ドイツ語 Deutsche, 政治教育 Politische Bildung, 歴史 Geschichte, 社会 Sozialkunde, 地理 Erdkunde, 英語 Englisch, フランス語 Französische, 数学 Mathematik, 幾何画法 Geometr. Zeichnen, 物理, 化学 Physik-Chemie, 生物 Biologie, 音楽 Musik, 芸術教育 Kunsterziehung, 工作 Werken, 家政 FamilienHauswesen, 保健体育 Leibeserziehung, 速記 Kurzschrift が一例である。

(5) Gymnasium

大学入学資格を与えるための教育機関で、学問的勉学と基礎教育を分担している。科目は古典語, 自然科学, 経済科学で異なるが, 古典語 Gymnasium, 宗教 Religion, ドイツ語 Deutsche, 歴史 Geschichte, 社会科 Gemeinschaftsk., 地理 Erdkunde, 音楽 Musik, 造形美術 Bildende Kunst, スポーツ Sport, ラテン語 Latein, ギリシャ語 Griechisch, 英語及び選択言語 Englisch und Wahlsprach, 数学 Mathematik, 物理 Physik, 化学 Chemie, 生物 Biologie が挙げられる。

2-2. 教員養成

西ドイツの教員養成は、4年制基礎学校、5年制基幹学校そして6年制実科学校の教員養成は、9年制ギムナジウム修了後3年制の総合大学、単科大学で6ゼメスター履修する。その際大学進学資格証明書 Abitur が必要である。ギムナジウム、2、3年制の職業学校 Fachschule の教員養成は、総合大学又は工業大学で、4年間8ゼメスター履修する。

一回の国家試験をもって専門的養成 Fachausbildung (学問的養成 wissenschaftliche Ausbildung) と、2年後第二回の国家試験を課される学校実習の Einführung in die Schulpraxis がある。

3. ドイツ教育思想の覚醒

日本とドイツのこの二国の戦後史をみると、近代日本の見本となったドイツ、戦前戦中の緊密な関係の中で戦後41年間分割された旧東ドイツ、一方分割を免れた日本。今共産主義イデオロギーの主義、主張の夢から醒めやらぬ旧東ドイツは、マルクス＝レーニン主義の古典に立脚することを捨て去り、近代ドイツの教養、改革教育の遺産を継承し、「ドイツの緑の心臓」Grünes Herz Deutschlandsといわれるチューリンゲンの森、物語に出てくるような現代化されていない広い酪農地、放牧された牛の群、中世が遺した広い領地と城郭、そこには、現代建築の高層ビルはなく、小麦畑が収穫を待つばかりに黄色に色を染め、冬に備えて刈り取られた牧草が直径2メートルの輪にぐるぐる巻にされ、点在し、中世、近世ドイツのさながらの遺産が、何もなかったかのように中世の遺した広い領地と城郭 Burg Greifenstein, 教会 Stadtkirche St. Nikolai ゆったり流れるシュヴァルツァー川、ウェーザー川、ザーレ川は中世・近代の原風景の中で、ゆったり流れる悠久の時間に身を委ね、ルター、M. の遺したキリスト教的ヒューマニズム、フィヒテのドイツ Deuschheit を核にし、「根源的生命 urspüngliches Leben 及びあらゆる精神的生命の源泉より、即ち神

よりの生命の耐えざる流れ」に身を任せ、「人類の諸関係がその原像Urbildのままに絶えず発達せしめられること、それ故に従前決して存在しない新しい生命の創造」⁽¹¹⁾ を目指すべきではないか。

その時、上述の旧ドイツのカリキュラムが示すように、そこにはドイツ国民の一人一人がゲルマン民族の魂、生命を感じ、1945年から1990年まで45年間は、ルターという「爾等幻影を見ん、爾等夢を見ん」であったことに気づき、ドイツにあの新人文主義の真の教育思想が覚醒すると信じたい。

注

- (1) 吉川仁『回国の岸辺の眼Ⅶ』吉川仁『文芸誌 セコイア』No. 27 2002年12月
- (2) 同前書128
- (3) 同前
- (4) 大嶽英夫『二つの戦後・ドイツと日本』NHKブックス 1992
- (5) 中野他著『戦後ドイツ教育史』御茶の水書房 1966. 24頁
- (6) 同前書28頁
- (7) 同前書63頁
- (8) 同前書62頁
- (9) 同前書63頁
- (10) 同前書173-174頁
- (11) 甲斐規雄「F. フレーベルのdas Allgemeine の思想～『わがドイツ民族に寄せる』の意味するもの」(教育学研究紀要第16号) 明星大学 2001年 14-23ページ

参考文献

- (1) Richard Mader, Bad Blankenburg und Umgebung
- (2) Peter Lundgreen, Sozialgeschichte der deutschen Schule im Überblick, Vandenhoeck & Ruprecht, 1981. 望田幸男監訳『ドイツ学校社会史概観』晃洋書房 1995
- (3) Walter Schlitz/Christoph Führ, Das Schulwesen in der Bundesrepublik Deutschland, Verlag Julius Beltz, 1966. 小野八十吉訳『ドイツ連邦共和国学校制度』藤田学園名古屋保健衛生大学出版部 1969
- (4) Diether Raff, Deutsche Geschichte. Vom Alten Reich zur Zweiten Republik, 2. veränderte Aufl., Max Hueber Verlag, München 1987. 松本彰外訳 シュプリンガー・フェアラーク東京 1990
- (5) Arbeitsgruppe am Max-Planck-Institut für Bildungsforschung, Das Bildungswesen in der Bundesrepublik Deutschland, Rowohlt Taschenbuch Verlag, 1984. 天野正治監訳 東信堂 1989
- (6) 吉川仁『回国の岸辺の眼Ⅶ』吉川仁『文芸誌 セコイア』No. 27 2002年12月
- (7) 大嶽英夫『二つの戦後・ドイツと日本』NHKブックス 1992
- (8) 中野光, 三枝孝弘, 深谷昌志, 藤沢法瑛『戦後ドイツ教育史』御茶の水書房, 1966
- (9) 林健太郎『ドイツ史』(世界外国史3) 山川出版社 1989
望田幸男, 三宅正樹編『概説ドイツ史 現代ドイツの歴史的理解』有斐閣 1987
- (10) 日本教育経営学会編『諸外国の教育改革と教育経営』(シリーズ教育の経営 6) 玉川大学出版部 2000
- (11) 日本ペスタロッチー・フレーベル学会編『ペスタロッチー・フレーベル事典』玉川大学出版部 1996
- (12) 稲富栄次郎『教育人名辞典』理想社 1962